第1学年 国語科学習指導案

場 所 大会議室 児 童 男 1 8 名 女 1 5 名 計 3 3 名 指導者 髙 髙 恵

1 単元名

おはなしを よみ, おはなし じゅんばん くいず たいかいを しよう 『おおきな かぶ』(光村図書1年上)

2 単元の指導構想

学習指導要領

C(1)イ

場面の様子や登場人物の 行動など、内容の大体を捉 えること。

子供の経験

入学してから今まで、教師や図書ボランティア、6年生などからのたくさんの読み聞かせを聞いてきた。楽しさや面白さを言葉や身体表現で表すことができる子供もいる一方、なかなか物語の世界に入り込むことのできない子供もいる。

子供の資質・能力

物語を場面の様子や登場人物の行動,会話などを手掛かりとしながら読み進める経験が浅く,物語に表れている順序には意味があるという見方で作品を読んだことはまだない。

学習の系統性 (学習前)

1年上「はなの みち」 場面の様子や登場人物の 行動など、内容の大体を捉 えること。

挿絵を並べ替える言語活動を通して、主人公に着目して「だれが、どうして、どうなった」ということを読み取った。また、登場人物の行動と出来事を関連付けて読んだ。

単元について

本単元では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の 大体を捉えることを通して、根拠を明確にして自己の考 えを深める力を育むことをねらう。

そのために、おはなしクイズを作ることを目的とし、場面の様子、登場人物の行動や会話、出来事、結末に着目して、 叙述と挿絵を関連付けながら物語の順序を考えて読む活動をする。

本学習材は、繰り返しの表現が多く用いられているリズミカルな物語文である。次々と出てくる登場人物と、かぶがぬけない展開がわかっていても子供たちが予想した通りの展開になる面白さを感じ、1年生にとっては楽しみながら学習を進めることができる。

学習の系統性 (学習後)

1年上「やくそく」

場面の様子に着目して、 登場人物の行動を具体的に 想像すること。

人物のしたことや様子 を、叙述と挿絵を関連付け ながら読み、感想を伝えた り、好きな場面を紹介した りすることを通して具体的 に想像する。

3 指導にあたって

そこで、根拠を明確にして自己の考えを深める子供を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮

〔日常生活〕

学校生活でルールを守って行動する理由を,上級生の姿と現在の自分たちの生活の様子を関連付けて考える。(どうして,そうするのかを問う。)

く深い学びの姿>

場面の様子や登場人物の行動,会話などを手掛かりにしながら,出来事や結末,順字を正確に捉える姿

[音楽科]

歌ったり体を動かしたりして表す理由を,リズムや拍と曲想とを関連付けて考える。(どうして,そのような動きや歌い方をしたのかを問う。)

〔図画工作科〕

模様が違う理由を、凹凸のあるものから こすり出しをしてできた模様を関連付け て考える。(どうして、模様が違うのかを 問う。)

[国語科]

かぶが抜けた理由を、場面の様子や登場人物の順序と関連付けて考える。(どうして、かぶはぬけたのかを問う。)

[生活科]

植物が成長した理由を,自分と植物との 関りを関連付けて考える。(なぜ,花が咲い たのかを問う。)

視点2 深い学びの実現に向かう単元構成

場面の様子や登場人物の行動、会話などを手掛かりにしながら、物語の登場人物の主な出来事、結末などの大体を捉えることができるようにするために、次のような手立てを講じる。

- ・ 物語に次々と出てくる登場人物には、意味があることに気付くことができるように、子供が読んだことの あると思われる「3びきの こぶた」の挿絵を提示し、「おはなし じゅんばん クイズ」を行い、「どんな 順番になりますか。」と問う。そして単元の見通しをもつことができるように、単元の終末に自分でクイズを 作ることを伝え、実際に作成する型のモデルを提示する。また、「どうしてこんなにおおきなかぶができたの だろう。」と考えたい意欲を抱くことができるように、推測される実物大のかぶを提示する。
- ・ 単元の課題「どうして かぶは、ぬけたのだろう。」の解決に向けて、かぶを育てたおじいさんの思いを捉えることができるように、場面の様子や登場人物の行動、会話などに着目し、挿絵と叙述を関連付けて考える場面を設定する。また、かぶを抜く登場人物の順序を捉えることができるように、登場人物の行動や挿絵の登場人物の様子に着目して「だれが、どうして、どうなった」のか考える場面を設定する。そして、捉えたおじいさんの思いと登場人物の順序を根拠として、かぶが抜けた理由をまとめるように促し、順序に着目して物語を読み、内容の大体を捉えることをねらう。
- ・ 場面の様子や登場人物の行動、会話を手掛かりとしながら単元を貫く課題「どうして かぶは、ぬけたの だろう。」で学習したことを活用できるように、「おはなし じゅんばん クイズ」を作る活動を設定する。 そのために、「おおきなかぶ」で場面の様子や登場人物の行動、会話などををもとに内容の大体を捉えたこと が活用されるような、登場人物の順序に意味がある内容の本を紹介する。

視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ おじいさんがかぶを大切に育てている思いを捉えることができるように、腰を曲げて手を添えながらかぶの種を撒いているおじいさんの様子が分かる挿絵などを板書に位置付ける。また、かぶを抜こうとして次々と現れる登場人物の様子を捉えたり、かぶが抜けた理由を考えたりすることができるように、「けれども」や「それでも」など、かぶの様子が分かる叙述に着目するように促す。
- ・ 挿絵と叙述をもとにして場面の様子や登場人物の行動や順序を捉えることができるように、「それが分かる言葉はありますか。」と問い、言葉をもとに考えることを促す。そして、場面の様子と登場人物の行動や順序をもとにしてかぶが抜けた理由を考えたことを自覚できるように、教師の言葉によって価値付ける。

4 単元の指導計画

(1)目標

・ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。

【知識及び技能】

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

・ 学習したことを生かして活用するために、学習の見通しをもち、他者と関わりながら楽しんで考えようと する。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 言葉には、事物の内容を表す	① 場面の様子や登場人物の行動	① 学習の見通しをもち、内容の
働きや、経験したことを伝える	など,内容の大体を捉えている。	大体を捉え,他者と考えを交流
働きがあることに気付いてい		しようとしている。
る。		② 進んで楽しみながら、学習し
		たことを活用してじゅんばんク
		イズを作ろうとしている。

(3) 指導計画 (6時間)

	6 导			
時	主な学習活動	指導の手立て	考えるための技法	評価規準(評価方法)
1	(1) 「おはなし じゅんばん くいず」をする。(2) 「おおきな かぶ」を読み、単元の学習課題を設定する。どうして かぶは、ぬけどうして かぶは、ぬける	 順序に着目できるように、「3びきのこぶた」の挿絵を利用したクイズをし、場面の順序を問う。 抜くことができないくらい大きなかぶの想像が広がるように、挿絵に着目を促し、実物大のかぶを提示する。 	比較	 学習の見通しをもち、内容の大体を捉え、他者と考えを交流しようとしている。 【態①→発言、観察】
2	文章と挿絵を見ながら, ど うしてかぶが大きくなった のかを考え, おじいさんの思 いを捉える。	おじいさんが大切に育てている 思いを捉えることができるように, 1枚目の挿絵に注目するよう促す とともに,「あまい、あまい」「おお きな、おおきな」と繰り返している ところの言葉を板書する。	関連付け	言葉には,事物の内容を表す働きや,経
	どうして かぶは, おおきくなったのだろう。			験したことを伝える
3	次々と登場人物が現れる 様子を読み、登場人物の順序 を捉える。	かぶを抜こうとする登場人物の順序と行動を捉えることができるように、「だれが・どうして・どうなった」かを問う。	比較 関連付け	働きがあることに気 付いている。 【知①→ 発言,ワークシート】
	かぶが ぬけるまで, どんなことがあったのだろう。			・ 場面の様子や登場 人物の行動など、内容の大体を捉えてい
4	前時までに捉えた,かぶが大きくなったわけと登場人物の行動をもとに,かぶがぬけた理由を考える。(本時)	・ かぶがぬけた理由について、叙述 や前時までに捉えたことを根拠と して考えられるように、挿絵と着目 した叙述を板書で整理し、かぶが抜 けた理由について、「どうしてそう 考えたのか。」と問う。	関連付け	る。 【思①→ 発言,ワークシート】
	どうして かぶは, ぬい	けたのだろう。		
5	おはなし じゅんばん クイズを作る。 おはなし じゅんばん	クイズを作成できるように、順序に理由がある作品を用意する。自分でクイズを作成できるように、文型を提示する。くいずを つくろう。	関連付け	 場面の様子や登場 人物の行動など、内容の大体を捉えている。 【思①→ 発言、ワークシート】
6	おはなし じゅんばん クイズ大会を行う。 おはなしじゅんばん <	・ 今まで読んできた複数の物語を 比較して、様々な物語について順序 に気を付けて読んできたことに気 付くことができるように、「似てい るところはどこか。」と問う。(いず たいかいを しよう。)	比較	・ 進んで楽しみながら、学習したことを 活用してじゅんばん クイズを作ろうとし ている。 【態②→発言・観察】

5 本時の指導計画

(1) 目標

かぶが抜けた理由を、場面の様子と登場人物の行動や順序をもとにして考えることができる。 (内容と構造の把握(1)イ)【思考力、判断力、表現力等】

(2)評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
かぶが抜けた理由を、かぶを育てるおじいさ	かぶが抜けた理由を考えることができるように、「どうし
んの思いとかぶを抜こうとする登場人物の行動	
や順序などをもとに考えている。	て「おじいさんがどうしても抜きたかったから。」「つぎつ
[思考・判断・表現]	ぎに登場人物が増えたから。」「みんなで力を合わせたか
	ら。」の選択肢を与え、考えることを促す。

(3)展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援(◇評価)
導入 10 分	 かぶが抜けた場面を音読し、抜けた場面を想像する。 課題を把握する。 どうして かぶは ぬけたのだろう。 	 やっとかぶが抜けたことを捉えることができるように、「とうとう」とはどういうことかを問うたり、「とうとう」の前の間に注目するよう促したりする。 かぶが抜けたときの感動を想像することができるように、最後の場面の挿絵に吹き出しを付け、子供の発言を板書に位置付ける。 かぶの大きさとなかなか抜けなかったことを想起することができるように、実物大のかぶを提示する。
展開 (27分)	3 かぶが抜けた理由の根拠となる叙述や 挿絵に着目し、それらをつなげながら、音 読や動作化をする。	手立て① 前時までの学習の中で、「かぶを育てたおじいさんの思い」や「登場人物の順序や行動」について考えたことを根拠として、課題についての考えをもつことができるように、挿絵と登場人物の行動や順序など、注目した叙述を板書に整理する。
	4 かぶが抜けた理由について考えたこと を交流する。	手立て② かぶが抜けた理由について、根拠を明らかにすることができるように、子供の発言に対して「それが分かる言葉はありますか。」と問う。
	5 交流したことをもとに,自分なりにか ぶが抜けた理由をまとめる。	・ 前時までに考えたこととかぶが抜けた理由とのつ ながりが分かるように、矢印等を用いて板書に位置付 ける。
	あとちょっとでぬけそうなときに、ねずみがきたから。おじいさんがたいせつにそだてたかぶを、みんながたべたくなったから。	 ・ 交流して出されたたくさんの考えの中から自分なりの理由をまとめることができるように、「あなたは、どうしてかぶが抜けたと思いますか。」と問う。 ◆ かぶが抜けた理由を、かぶを育てるおじいさんの思いとかぶを抜こうとする登場人物の行動や順序などをもとに考えている。
まとめ (8分)	6 おじいさんの思いや、場面の様子が表 れるように音読する。	【思 ワークシート・発言】 ・ 想像したおじいさんの思いや、場面の様子を表しながら音読することができるように、どのように読めばよいか問うたり、板書を用いて抜けるまでの間や抜け
	7 かぶが抜けた理由を考えたことについて、学習を振り返る。 どうして かぶが ぬけたのかをかんがえることができましたか。(◎・○)	たときの感動を想起するよう促したりする。 ・ 本時の学習について、場面の様子と登場人物の動や順序をもとにしてかぶが抜けた理由を考えたとを自覚できるように、教師の言葉によって価値ける。